

校友会会報

No. 21



酪農学園大学同窓会校友会

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582 同窓生会館内

2015年1月1日発行

TEL (011) 386-1196

FAX (011) 386-5987

e-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp

HP <http://kouyukai.rakuno.org/>

新たな校友会の出発について

酪農学園大学同窓会校友会 会長 野村 武

はじめに

全国の同窓生の皆様には同窓会校友会に対するご理解ご支援をいただき心から感謝申し上げます。

大学卒業生数27,223名、大学院卒1,510名（2013年度末）となります。大きな組織に成長しております。多くの同窓生が全国各地において創立者黒澤西蔵翁の教え「健土健民」の精神を实践して社会貢献により酪農学園の高い評価を得ている事に同窓会として誇りに感じております。

2014年度理事・代議員会の開催について

5月23日理事・代議員会が開催されました。2013年度事業報告、収支決算、監査報告結果について2014年度事業計画と収支予算がそれぞれ審議され、承認されました。各学科の事業報告と収支決算が報告されそれぞれの学科で活動に差はありましたが順調に実施され、承認されました。このことにより校友会組織が一元化した新たな同窓会校友会がスタートしました。

主な改定事項として

- ①終身会費の改定：30,000円に変更
- ②準会員制度の導入：今年度新生から準会員として入会
- ③全国の地区・支部同窓会への支援強化：全国各地で組織活動している同窓会連合会への地区・支部同窓会活動の助成
- ④校友会会則の改定：一元化による各学科同窓会の連携強化など
- ⑤校友会会計と同窓会連合会会計の一元化について
会計の一元化については唐突な感があるので次年度に向けて丁寧な説明がほしいとの意見、会費値上げ等において会則との整合是正の意見もあり今後理事会で検討していく事としました。

その他の主な事業として

- ①準会員への入学記念品（校友会オリジナル革製パスケース）の贈呈

- ②仙北学園長編著「創立者黒澤西蔵を今に読む。」を300冊購入し、支部活動の資料として各支部総会時に配布
- ③同窓会管理システムの導入について検討する
- ④学生支援のための助成（白樺祭など）
- ⑤卒業生への酪農讃歌CD、酪農ジャーナルの贈呈
- ⑥シリーズ「酪農学園の精神」発刊
- ⑦校友会会報のより一層の充実

今後の課題として

各学科同窓会活動の継続と校友会活動の一元化の整合性については、それぞれの活動の密度や歴史的経緯などに大きな差があり、各学科同窓会運営の基本的な考え方を踏襲して慎重に進めていく事とし、校友会活動の平準化を計っていく必要性があります。

先の理事・代議員会においては各学科同窓会会計と校友会会計の一元化について、各学科同窓会と協議を重ね一元化により複雑化する経理状況に伴う経理・会計の事務体制の強化が必要となるとの意見もいただいています。

また、校友会運営の効率化を求めていくために理事会の在り方やその定数の見直しと事務局体制の再検討が急務となります。これらを実践していく上で会則の変更・改定を積極的に検討していく必要があります。

今後の課題として、一元化の推進とともに、校友会には在学生に加えて全国で活躍する卒業生を応援する同窓会（連合会として現在、全国に12地区60支部同窓会設置）として、単位（高校・短大・大学）同窓会の垣根を越え「酪農学園同窓会」として大同団結していくことが望まれます。

おわりに

新たな校友会の出発を機に、「酪農学園ならではの同窓生の強い絆により全国を網羅する同窓会ネットワーク」を確立して、同窓会活動の充実と酪農学園の発展に寄与していきたいと望んでいます。

■循環農学類「循環農学類の近況」

循環農学類長 小宮 道士

同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。2014年度の循環農学類の近況についてご報告申し上げます。

2014年3月、これまで酪農学園大学、また循環農学類の教育にご尽力いただいた上田純治教授、小阪進一教授、松中照夫教授、市川治教授、村岡範男教授が退職を迎えられました（後半に先生から頂いたメッセージを掲載しました）。

4月7日には循環農学類第4期の新生277名を迎え、入学式が行われました。また、4月からは天野朋子准教授（家畜遺伝学）、岩本正姫准教授（健康運動生理学）、三枝俊哉准教授（草地・飼料生産学）の3名の教員が循環農学類に着任いたしました。

2011年度にスタートした新教育体制は4年目を向かえて移行が完了し、2015年の春には学類からの卒業生が初めて社会に旅立ちます。今4年生は卒業に向けた最後の学習や最終年次の集大成である卒業論文に取り組んでいます。卒業論文発表会は2015年1月21日に行われます。

大学開学以来の酪農学科、農業経済学科における教育は、今も多くが循環農学類の中に引き継がれています。今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓生皆様のますますのご活躍と、ご家族のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

❖❖❖ 退職教員からのメッセージ ❖❖❖



私の専門のゲノミック育種は今年から北海道でも本格的に乳牛で実施されることになりました。退職後、晴耕雨読の余生を過ごそうと思っていましたが、これらの結果が楽しみで隠居の身分は当分お預けになりそうです。学園には約10年間お世話になりましたがその間、周囲の温かい協力で研究機器を備えることができ、後任者へ引き継ぐこともできました。良き仲間との出会いに心から感謝しています。現在は、実験科目の非常勤講師と研究の応援に大学へ時々出勤する日々を過ごしています。

（上田 純治）



卒業生の皆様その後、いかがお過ごしですか？私は2014年4月で66歳になりました。年相応に元気に暮らしています。とは言え多少の油切れが生じ、その都度、注油しているのが実態です。定年後はどうしても運動不足になりがちなので最近、散歩と好きな水泳を始めました。9月中旬に開催されるホームカミングデーには、いつも参加しています。ひょっとしたら、皆様と再会できるかも知れませんね。どうぞ気軽に声をかけてください。

（小阪 進一）



2014年4月からホクレンで働いています。農家の抱える技術的課題を共に悩み、解決の糸口を見つけること、農業試験場が開発した新技術の現場への普及をめざす展示圃の設定、農協職員を対象に土壌や作物栄養に関する基礎理論の解説などで汗をかいています。農業現場では若者を求めています。若者が新規参入しなければ農業が衰退します。それは地域の崩壊を意味します。とくに酪農の後継者不足は喫緊の課題です。酪農大がそのために底力を発揮すると信じ、期待しています。

（松中 照夫）



私は2014年4月から教育センター特任教授として引き続き教育に従事させていただいています。日常的には講義・演習科目が前期5科目、後期3科目と学生・院生の教育指導などもあるので、昨年度とほぼ同様に毎日、学生・院生の教育にあたっています。本学の建学の精神に基づく実学教育は手間と労力が必要です。これまでの経験を生かして学生・院生の教育及び研究の充実のために、これからも奮闘していきたいと考えています。

（市川 治）



こんにちは。退職後はかなり自由な時間を持てるだろうと大きな期待を抱いていたのですが、現実はなかなか厳しいですね。原稿の依頼や非常勤の講義など、結構忙しく過ごしています。それでも、現役時代に買い集めたCDやDVDに親しんだり、若い時に感銘を受けた図書をもう一度読み直したりする時間を意識して確保しています。肉体的衰えは如何ともしがたいのですが、精神だけは10代、20代を維持しようと心掛けています。自分の経験から申し上げるのですが、若い時の勉強は本当に大事ですね。

（村岡 範男）

■食と健康学類「学類の近況」

食と健康学類長 石下 真人

2011年度より、従来の学部、学科から学群、学類体制に移行し、本年度で完成年度を迎えました。食と健康学類は食品科学科と食品流通学科が一つとなり、食品機能科学コース、食品開発学コース、食品流通学コースおよび管理栄養士コースの4コースが設けられました。新しいカリキュラムの1年次には、食品科学科や食品流通学科にはなかった農場実習が配置され、牛の世話や搾乳、農作物の栽培などを体験できるようになっています。

食と健康学類の発足により、初代学類長として応用生化学研究室の山本克博教授が就任され、新旧のカリキュラムが混在した混乱の2年間を無事務められ、2013年3月で定年退職されました。時期を同じくして食品経済学研究室の鈴木忠敏教授ならびに食品企画開発研究室の本多芳彦教授が定年退職されました。山本教授と鈴木教授は特任教授、非常勤として大学の教育に尽力いただいております。本多教授はこれまでの経験を生かして、個人事業として「本多食品開発技術サポート」を立ち上げられました。いずれの先生もまだまだご活躍されておられます。後任として田上貴祥助教、相原延英講師および阿部茂教授がそれぞれ赴任されました。山本教授の退職

後は、昨年度から石下が2代目として学類長を務めております。

2014年3月には食品科学科と食品流通学科の最後の卒業生を送り出しました。それぞれの学科では食と健康学類への移行記念式典が開催されました。食品流通学科では2013年9月28日に新さっぽろアーキシティホテルにおいて49名の出席者により開催され、卒業生41名、現職教員8名が出席しました（写真1）。教員の紹介や各期卒業生のスピーチなど大いに盛り上がり、今後の発展を祈念しました。また食品科学科では2014年8月23日に京王プラザホテル札幌にて記念式典並びに記念同窓会を開催しました。現および退職教職員ならびに卒業生、総勢224名が出席しました（写真2、3、4）。最後の学科長であった竹田保之教授、退職された菊地政則教授と山本教授の講演の後、記念パーティーとなり、やはり大いに盛り上がりました。食品科学科の1期生はすでに40歳半ばとなり、社会の第一線で活躍されています。本年度末には食と健康学類の1期生が卒業します。彼らの道しるべとなるようますます活躍されることを期待しております。



写真1 食品流通学科 新さっぽろアーキシティホテルにて



写真2 食品科学科 京王プラザホテル札幌にて



写真3 講演の様子



写真4 記念パーティーの様子

■環境共生学類「現在進行中の環境共生学類」

環境共生学類長 山舗 直子

農食環境学群環境共生学類は、前身である環境システム学部の半数の定員の教育組織として、生命環境学科12名、地域環境学科11名、環境マネジメント学科2名、獣医学科1名をあわせて計26名の教員で2011年4月に発足しました。2012年度以降、河合博司、井上博紀、森川純、篠崎志朗、小川巖の各教員が退職され、一方、新任として、佐藤喜和、森さやか、鈴木透の3名の教員が加わり、現在24の研究室があります。また、2014年度から助手2名も新たな教員として位置付けられました。2014年9月1日現在の在學生は、4年生から順に、121・136・147・146の計550名となっています。早いもので1期生の卒業まであと少しというところまで進んできました。同窓生の皆様に、環境共生学類における4年間の学びの一端をお伝えしたいと思います。

新教育課程では、大きな土台と広い視野をもったジェネラリストを目指し、その上でスペシャリストの力を発揮するべくそれぞれの専門性を特化していくというのが基本設計です。基盤教育の農場実習（健土健民入門実習）は全学5つの学類の入門的な内容の実習を行います。環境共生学類企画はキャンパス内にある木々の樹高など測定する毎木調査で（写真1）、全学800名ほどの学生全てがこの調査を行います。専門基礎教育自然環境科学領域の自然環境科学実験・実習では、学内実習のほか学外実習を組み込んでいます。写真2は、土曜の丸1日を使って洞爺湖で行う湖沼の生態系や森林の野生動物に関する基本的な調査を盛りだくさんに実践したあとの集合写真です。3年生からは、野生動物学と生命環境学のコースに分かれてコース専門科目を必修として履修します。専門的な学びの一方、学類共通専門科目の履修や、4年には他コース科目の選択、また研究室が完全にコースに分かれて配置されているわけ



写真1 樹高など測定する学生



写真2 洞爺湖にて学外実習後撮影

ではないので、領域統合的な学びも展開されています。

1期生は、まもなく卒業論文中間報告の時期を迎えます。卒業研究の成果を生み出すには、学生にも教員にも苦しみがありますが一人一人の力ばかりでなく、学内外を問わず多くの人の協力と支援をたくさん受けていますのでその成果が期待されるどころです。世の中の変化は著しく環境も変化しておりますが、そのような変化も包含するユニークな学びの場として発展していく可能性が環境共生学類にはあると考えています。

■獣医学類「獣医学類の現状について」

獣医学類長 竹花 一成

現在獣医学類（6、5年生は獣医学部獣医学科学生）では887名の学生が獣医師になるべく日々勉学に励んでおります（表1）。獣医学類の教育体制は2011年度より分野、ユニット制を実施し（表2）総勢40名の教員で学類教育にあっております。まだまだ不完全な状態ですが完成に向けて努力しております。今年度は獣医学科創立50周年の年にあたり、記念行事（1. 記念講演会（本学及び東京） 2. 祝賀会 3. 記念誌作成）を進めております。本学での記念講演会では本学名誉教授加藤清雄先生に「獣医学科50年を振り返る」と題して、苦難と希望に満ちた本学獣医学類の歴史についての話をお願いしております。また、古くから学術交流関係のあるオハイオ州立大学から名誉教授の山口守先生に「これからの獣医学：基礎および臨床獣医学教育の使命と将来展望」と題して、獣医学そして本学獣医学類への今後の提言をお願いしております。東京での記念講演会は千代田区立日比谷図書文化館において「未来の大人たちへー共に考えよう人と動物と環境を一」と題して実施いたします。多くの関係者の方々にご尽力いただきました事、誌面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、学類では2013年度末で4名の先生（加藤清雄先生と黒澤隆先生が定年、泉澤康晴先生、高橋樹史先生が依願）が退職されました。加藤先生の後任には名古屋市立大学医学部より北村浩先生（北大獣医平成7年卒）が既に4月より、黒澤先生の後任は大塚浩通先生（本学獣医25期生平成6年卒）が10月1日に北里大学より着任されました。そして昨年より空席になっていた実験動物ユニット教授には熊本大学医学部より大杉剛志先生（本学獣医13期生昭和55年卒）が、高橋先生の後任には東京農大より村田亮先生（本学獣医37期生平成18年卒）、そして伴侶動物内科学Ⅱには玉本隆司先生（東大獣医平成19年卒、大学院平成26年度修了）が4月から着任さ

表1 各学年の学生数 / 表2 獣医学類の教育体制

表1		表2					
学年	人数	獣医学類					
1	132名	分野名	生体機能学	感染・病理学	衛生・環境学	生産動物医療学	伴侶動物医療学
			獣医解剖学	獣医ウイルス学	食品衛生学	動物生殖学	伴侶動物内科学Ⅰ
			獣医組織解剖学	獣医細菌学	環境衛生学	生産動物内科学Ⅰ	伴侶動物内科学Ⅱ
			獣医生理学	獣医寄生虫学	人獣共通感染症	生産動物内科学Ⅱ	伴侶動物外科学Ⅰ
			獣医栄養生理学	実験動物学	獣疫学	生産動物外科学	伴侶動物外科学Ⅱ
			獣医生化学	獣医病理学	獣医衛生学		画像診断学
2	146名	ユニット名	獣医放射線生物学	獣医免疫学	ハードヘルス		獣医麻酔学
			獣医薬理学				
3	127名	ユニット名					
4	142名	ユニット名					
5	150名	ユニット名					
6	131名	ユニット名					

れました。それぞれの分野での専門教育のより一層の充実が期待されます。

今、日本の獣医学教育は大きな転換期を迎えています。それは参加型臨床実習の導入に関わる共用試験の導入です。近年、獣医師に対する社会的ニーズが大きく変化し求められる能力は高度化・多様化し、特に国際通用性のある応用獣医学教育とバランスの取れた臨床獣医学教育を速やかに行うことが求められています。今までは獣医師法17条の規制があり学生は直接の診療行為を行うことはできませんでした。しかし、平成22年6月30日農林水産省 22消安第1514号で“大学のガイドラインにより許容される獣医学生の診療行為”1) 侵襲性のそれほど高くないもの、2) 要件を満たす指導教員によるきめ細かな指導、3) 事前に獣医学生の評価を行う、4) 飼育動物の所有者の同意を得るとされました。上記の3)を保証するものが共用試験です。本学では現在2年在学生が4年後期に受験します。それをクリアして始めて参加型臨床実習を受講できます。参加型臨床実習のうち斉一教育は学内で実施する事が決まっております。現附属動物病院では140名の学生実習には対応できず新施設の建設構想が持ち上がっております。

このように現在獣医学類は大変な苦難の中に存在する事は疑いがありません。今後も同窓生の皆様の物心両面からのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



酪農学園大学 獣医学科創立50周年記念祝賀会 2014年10月17日 於 ホテルエミシア札幌

■獣医保健看護学類「学類の近況」

獣医保健看護学類長 北澤多喜雄

2011年に産声を上げた獣医保健看護学類も今年度は4年目を迎え、今年の3月には1期生を世の中に送り出していくことになります。既存の学科の改組により生まれた他の4学類とは異なり、獣医保健看護学類は唯一新設された学類であり、8名の就任予定教員の内、先ず6名の教員で(内田(英)先生、内田(佳)先生、加藤先生、北澤、椿下先生、八百坂先生)スタートしました。その後、郡山先生、佐野先生、宮庄先生が加わりましたが、内田佳子先生(結婚退職2012年9月)、加藤先生(定年退職、2014年3月)が退職されました。差引すると7名であるため、現在、獣医学類から2名の教員(遠藤大二先生、福本先生)にお手伝いをお願いしています。また、嘱託教員として黒澤先生にもご尽力を頂いています。専門基礎科目や学内の動物病院の実習に関しては多くの獣医学類の教員、基盤教育に関しては多くの大学教員から手助けを頂いており、この場を借りてお礼を述べます。

新設学類では、1年過ぎるごとに学生数が2倍、1.5倍、1.33倍と増加し、4年たった現在では240名近くの学生が所属する学類となっています。当然仕事量は増加しますが、少しでも質の良い学生を輩出しようと学類教員は日々努力しています。

学類で行っている教育の特色として学生に学類犬のお世話をしてもらっていることがあげられます。学生は朝昼晩の1日3回、学類犬の食餌、散歩、歯ブラシ、ブラッシング、あとは簡単な健康チェックやシャンプーを行っています(基本的には2年生の夏休みから3年生の夏休み前まで)。この作業は当番制で行われシフトの管理も学生の自主性に任せています。学生たちは目の前の生きている動物を毎日観察することにより、座学での知識を再確認するとともに、「看護」の基本である「看」の字の「目」の部分、「観ること」に関するセンスを養っています。まさに「実学教育」を具現化する形の学びが

行われています。学類犬のお世話では当番から次の当番への申し送りも行って、学生はコミュニケーション能力(他人にものを伝える力)を同時にトレーニングしています。このような日々の小さな積み重ねが、いつかは花開くと考えています。山を見た時にその山容に圧倒されることがありますが、そんな山も小さな岩からできています。継続すること積み重ねていくことの大切さを学類犬のお世話から学んでいます。

看護学類の志願者は、ここ4年間は大きな変動がなく、志願者数360~400名の中から60名を入学させる形です。4年が経ち今年初めて卒業生を出すこととなりますが、出口にあたる就職に関しては卒業論文とともに今まさに最もホットなポイントであります。就職先は小動物病院の看護師にとどまらず、生産動物や実験動物の分野に進むもの、またフードなどの動物に関連した民間企業、動物に関連しない民間企業、公務員、大学院進学など様々です。このような多様性は、学類学生の職域を広げる意味で重要なことなのではと思っています。

入学から卒業までの4年間で1サイクルと考え、獣医保健看護学類は今初めてくるっと1回転しようとしています。1回転した先に何が待っているかは分かりませんが、教員、学生ともに昨日より今日、今日より明日がより良くなることを目指し前を向いて進んでいます。



2014年4月 在校生有志でイヌの人文字



一期生と学類犬

2014年度ホームカミングデー報告

9月13日(土)秋晴れの下、全国各地から卒業生と教職員約160人で第23回ホームカミングデーが開催されました。

まず初めに今回で3回目となる本学関連食材によるパーベキューランチを同窓生会館前にて和やかに楽しみました。

食材は本学フィールド教育センター肉畜生産ステーション(元野幌農場)で肥育された日本短角種の肉やトンデンファーム(本学OB経営)ウインナー、本学乳製品製造学実習室の牛乳やアイスクリーム、野村武会長差し入れのトウモロコシなど盛りだくさんで参加いただいた皆さんに大変喜んでいただきました。

パーベキューランチは(公財)酪農学園後援会永田享常務理事の進行で開会し、同窓会連合会野村武会長からのあいさ



写真1

講堂ではホームカミングデーの記念礼拝・記念講演が開催されました。

記念礼拝の司式は、榮忍とわの森三愛高等学校校長により行われ讃美歌合唱のあと、聖書朗読(写真3、4)、本年度物



写真3

続いて行われました記念講演では同窓会校友会竹花一成事務局長の司会で進行し、麻田信二理事長より学園を取り巻く状況報告と講師への謝意のあいさつが述べられました(写真5)。

今年は本学酪農学科4期卒業で38年間に渡り農業高校教員を務め、現在は酪農とちぎ農業協同組合技術顧問としてご活躍の齊藤達夫氏を講師にお迎えしました。

「牛飼いの教員のあゆみ」をテーマに大学時代の寮生活や研究室の思い出から始まり高校農業科の教師を目指したきっか



写真5

つ(写真1)、続いて干場信司学長から歓迎のあいさつをいただきました。

その間、本学学生ブルーグラス研究所によるアコースティックなカントリー調の演奏(写真2)を挟みながら、酪農学園後援会矢野征夫理事長、貴農同志会井上昌保会長からもあいさつをいただきました。

その後、堂地修教授から食材に使われている牛肉の紹介、関東甲信越地区同窓会大津初司副会長、大学生協吉田健司専務理事からそれぞれにあいさつをいただきました。

最後は仙北富志和学園長からパーベキューランチ閉会のあいさつをいただき参加いただいた皆さんには黒澤記念講堂へ移動していただきました。



写真2

故者追悼が行われました。

その後榮校長が「何を知っているのかが問われる」をテーマに奨励を行いました。

礼拝の最後には参加者全員で酪農讃歌を合唱しました。



写真4

け、生徒とのかかわりやいろいろな努力の成果や失敗談なども交え、熱意ある教員生活についてお話いただきました(写真6)。とても分かりやすく大変興味深いものでした。

次回、第24回ホームカミングデーは2015年9月12日(土)に開催予定としております。ぜひ多くの卒業生に出席いただき野外パーベキューランチ、恩師や友人との交流そして記念礼拝、講演会を楽しんでいただきたいと思います。

詳細が決まりましたら同窓会ホームページにて掲載いたします。



写真6

「各同窓会の校友会への一本化」への幕開け

会員の皆様には、変わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度入学生より「各同窓会の校友会への一本化」が実施され、在校生に対する準会員制度がスタートしました。昨年度も記載しましたが、入学式後の会場で校友会会長より校友会の存在意義とその連帯感を養う意義についての説明がありました。そして、全ての入学生（校友会準会員）に入会記念品として「パスケース」が寄贈されました（写真）。



写真：茶色の革製オリジナルパスケース（酪農大学生協で購入可能）

これは一昨年度より末藤委員を中心に企画から立案までされた全て手作りの校友会オリジナルのものです。これを持つことで酪農学園大学校友会準会員としての連帯感を高めてくれればと切に願っております。

物故者 2013年4月から2014年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

金丸 顕男（酪農・1期）	齋藤 正史（酪農・4期）
小阪 恵（酪農・13期）	熊谷 裕弘（酪農・13期）
藤本 真澄（酪農・17期）	大平 恒（農経・5期）
大谷由紀子（農経・6期）	岸本 純一（農経・24期）
小野 哲生（農経・28期）	荒井 徹（獣医・3期）
西井 正紀（獣医・4期）	池亀 康雄（獣医・5期）
黒田 博通（獣医・9期）	郡司美保子（獣医・13期）
越智 賢（獣医・25期）	伊藤 暢彦（獣医・42期）
谷地 智明（食品・4期）	敬称省略

2014年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

5月23日（金）新さっぽろアーキシティホテルにて2014年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議委員会が開催された。

理事11名、代議員17名が出席した。議長は会則により野村会長が行った。議案第1号：2013年度事業報告、収支決算が報告され承認された。監査結果について監事からの指摘事項に関し説明があり今後指摘を解消する方向で進めることが報告された。第2号：2014年度事業計画(案)、収支予算(案)について提案され承認された。第3号：2013年度各学科同窓会事業報告、収支決算について学科事務局長により報告され承認された。第4号：校友会と連合会の会計一元化について、2015年度からの一本化に向けた方向性について種々議論され今後内容をより慎重に議論し進めることとした。第5号：同窓会費改正に伴う退学者の同窓会費返還について提案され承認された。第6号：同窓会費改正に伴う他大学からの大学院入学者の会費徴収について提案され承認された。第7号：校友会会則の改定について提案され承認された。

そのほか①連合会支部助成金の支出内容、科目追加について説明され承認された②準会員への入学記念品の詳細が報告された③入学式における校友会会長のあいさつに関して報告され今後も続けることとした④食品科学科同窓会で行われている名簿管理システムの説明をいただいた。

酪農学園大学同窓会 校友会事務局長 竹花 一成

加えて校友会会報も各学類の動きが理解できるようにページを割きました。これを第一歩とし、今後さらに校友会組織の一元化を実質的に推進していきたいと思っております。特に各地で開かれている同窓会に、準会員と学費負担者が参加して下されば、より幅広い会員相互の関係が確立できると信じております。

また、卒業生が大学に戻ってくるイベントでもあるホームカミングデーでは大変好評であるバーベキューランチを本年度も実施し、多くの皆さまの参加を頂き、和気あいあいとした時間をつくることができました。その準備には大学教職員、退職者の会である貴農同志会の皆様にご協力頂きました。食材として提供された肉は元野幌農場で飼育した牛肉を学園より大変安価で提供していただいています。加えて、好評のトウモロコシは校友会会長のご尽力により毎年頂いております。これらのご厚意に対しましてこの誌面をお借りして御礼申し上げます。

世の中がめまぐるしく変わる中、校友会の設立概念を忘れることなく、さらなる酪農学園の発展を目指し、校友会をより熟成させるよう尚一層努力致しますので、今後とも会員の皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

会計報告 2013年度予算、決算および2014年度予算について下記のとおり承された

収入 (単位:円)

項目	2014年度予算	2013年度決算	2013年度予算	備考
前年度繰越金	4,426,956	7,946,571	7,946,571	
同窓会費	10,695,000	10,095,000	10,815,000	15,000×713名
新同窓会費	24,060,000	0	0	30,000×802名
預金利息	5,000	2,251	5,000	
助成金	10,000	10,000	10,000	
ホームカミングデー分担金	300,000	60,000	300,000	学園・関係団体より
雑収入	100,000	0	10,000	
合計	39,596,956	18,113,822	19,086,571	

支出

項目	2014年度予算	2013年度決算	2013年度予算	備考
校友会事業費	8,165,000	3,433,995	2,500,000	
入学記念品費	1,700,000	1,590,000	0	パスケース
卒業記念品費	1,250,000	109,205	750,000	酪農ジャーナル(2015年度まで) 酪農讃歌CD、学位記ホルダー
卒業記念祝賀会関係費	3,565,000	0	0	卒業記念写真代他
在学生関係費	500,000	100,000	100,000	白樺祭支援他
同窓生関係費	100,000	0	0	
ホームカミングデー関係費	500,000	144,675	300,000	
会報関係費	400,000	220,500	250,000	印刷代他
シリーズ小冊子	150,000	127,740	200,000	印刷、郵送代
周年事業費	0	1,141,875	900,000	
学科事業費	0	5,343,124	6,602,750	2013年度学科事業費
会報費	0	1,043,650	1,093,750	
会議費	0	173,920	255,000	会場代他
卒業式記念品費	0	2,004,664	2,036,070	学位記ホルダー他
卒業パーティ関係費	0	1,532,800	2,108,090	会費補助他
活動費	0	435,860	630,000	
事務費	0	92,920	240,000	事務用品他
雑費	0	59,310	239,840	振込手数料他
連合会支部活動助成費	5,614,250	1,619,379	1,622,250	通信費助成他
校友会運営費	3,625,200	3,290,368	3,290,200	
会議費	200,000	147,488	200,000	理事・代議員会他
連合会負担金	640,200	640,200	640,200	負担金
コンピューター費	0	0	100,000	
人件費	2,200,000	2,031,909	2,000,000	事務局長手当含む
通信費	50,000	35,060	50,000	電話代他
旅費交通費	80,000	69,300	100,000	監事、理事、代議員
慶弔費	20,000	0	30,000	
事務用品費	300,000	249,350	100,000	コピー、トナー代他
消耗品費	35,000	30,436	30,000	フロアマットリス代他
雑費	100,000	86,625	40,000	振込手数料他
小計	17,404,450	13,686,866	14,015,200	
予備費	6,152,506	4,426,956	5,071,371	
準備金	16,040,000	0	0	卒業時に使用する
合計	39,596,956	18,113,822	19,086,571	